

清流

せいりゅう

生活支援ロボット「パルロ」のご紹介

Palro (パルロ) は、富士ソフト株式会社で開発された高度な人工知能を搭載した人型のコミュニケーションロボットです。

平成26年10月2日に藤沢市と富士ソフトは、藤沢市の市民生活の豊かさの向上や持続的発展に寄与していくことを目的とする「介護予防等事業における連携に関する協定」を締結しました。具体的な取り組みとして、当院が依頼を受け、パルロ運動教室を



さくら棟会議室にて、9月30日から12月19日まで、全36回開催しました。
藤沢市在住の高齢者20名が参加し、当院

企画調査室長の運動プログラムを研究開発中の体操パルロに搭載し、体と脳の機能向上を目的とした体操を60分間行いました。教室ではパルロが指導し、サポートスタッフとして、運動指導員、パルロ運動サポーターと共に、楽しく運動しました。



初めはパルロの指導で戸惑いがあった方もいましたが、徐々に慣れパルロと一緒に体操したり、パルロとの会話を楽しむなど、笑顔の多い教室でした。

●パルロについて詳しく知りたい方は、パルロ公式ホームページをご覧ください。 <http://palro.jp/>

ご存知ですか? せきエチケット



薬局メモ

「せきエチケット」とは、咳やくしゃみをする時に、マスクやハンカチ、ティッシュなどで口を覆い、しぶきが周囲に広がらないようにすることです。

インフルエンザは、感染した人の咳やくしゃみで飛び散ったウイルスを含んだ小さな粒子(飛沫)を吸い込んだり、直接・間接的に飛沫が手や指につき、目・鼻・口などに触れた場合に感染します。

「せきエチケット」で飛沫が広がるのを抑えることは、感染を広げないためにもとても大切なことです。手洗い、うがいも忘れずに。

また、十分な睡眠や栄養を心掛けて、免疫力を高めることも感染予防には大切です。

※インフルエンザワクチンの接種は、重症化を防ぐことが期待できます。

部活動紹介★★★

サーフィン部

活動を始めてから5年目となりました。現在ではメンバーも17名に増え、初めてボードに触った女性看護師さんもその日にテイクオフ出来るようになり、楽しんでいます。



毎年千葉で行われる全国の医療従事者向けサーフィン大会にも出場し、過去に優勝者も出しています。

サーフィンは自然と向き合い、波と一つになる素晴らしいスポーツです。



また、地元のボランティア団体と共にビーチクリーンにも力を入れ、地域に貢献出来るよう努めています。



藤沢病院クイズ???

解答編

前回のクイズは、さくら病棟の各階のイメージカラーについてでした。答えは…

- 2階の黄緑 → 芽吹き(芽が出る春)
- 3階のオレンジ → 陽光(ふりそそぐ太陽・初夏)
- 4階の深緑 → 緑葉(成長する木々・夏)
- 5階の紫 → 実り(収穫の秋)

でした。ちなみに病院のイメージカラーは浅葱色ですが、1階は大地(すべての源)、屋上は風(風に運ばれる種子)として、さくら棟全体で自然の循環をイメージしています。まだまだたくさん面白いものがあるので、皆さんも探してみてくださいね。

外来担当医表

★受付…午前9:00～11:30
※初診は11:00まで、予約制はございません(通常)
注)もの忘れ外来につきましては「予約制」となっておりますので、事前にお電話でお問い合わせください。
お急ぎの場合は、**精神科**初診へ受診してください。
問い合わせ先: 0466-23-2343(代表) 平成27年1月1日現在

診察室	月	火	水	木	金	土
第1診察室	初診(新患)診察室					安藤
第2診察室	藤巻	香山	松本	田代	西田	田代
第3診察室	遠藤	須山	宮内		松村	加藤
第4診察室	石井(紀)	岸田	金子	安倍	鈴木	木戸
第5診察室			清水	木下		
第6診察室	加納		井出			
もの忘れ外来(毎週火曜日のみ)		西田	清水			
歯科			石井(通)			

新年あけましておめでとうございます。前号で出題したクイズの答えを発表しましたが、皆様は正解できましたか?さくら棟・かえで棟のテーマカラーごとにいろいろな不思議があるそうです。今後も掲載予定なのでチャレンジして下さいね。これから寒さが一段と増えます。風邪やインフルエンザに負けないでお過ごし下さい。今年一年読者の皆様にとって、良いお年になりますようお祈りいたします。(M.K)

編集後記
次号のお知らせ ●平成27年8月の予定です。

医療安全に関する宣言

私たちは、医の倫理にもとづき良質な医療を提供し、患者さんと共に安全な医療を確保することに努めます

医療安全って?!

最近はどこでも聞くこの言葉、2000年までは今のようにメジャーなイメージはありませんでした。それまでの病院における安全は“医療従事者は人の命を扱うから、万が一にも間違えることなど起こしてはならない!!”と教育されていました。ところが、1999～2000年に日本の病院で起きた何件かの医療事故や、アメリカからの医療事故に関するレポート等がきっかけとなり、医療における安全についての意識が変化してきました。

医療従事者だって人間ですから…

当初、「間違えてはいけない」と指導されていた内容は、『人は誰でも間違える』と修正され、また重要なことは、『個人を攻撃して起こしてしまった誤りをとやかく言うのではなく、安全を確保できる方向にシステムを設計し直し、将来のエラーを減らすように専念することである。』と変化しました。

エラーを減らすために出来ること

その作業を取り巻く“何か”に目を向けて追及することが、ヒューマンエラー対策の第一歩と考えています。



作業を取り巻く“何か”に注目する

集中力を奪う何かがあったのでは?

報告しづらい何かがあったのでは?

見逃し・見間違いを誘う何かがあったのでは?



個人を責めるだけでは対策は見えてこない

そこで…医療安全管理室の役割

“事故にはならなかったけど危なかったこと”や“このままだったら事故になるかもしれない”など、色々なたくさんの情報をみんなから得られれば、『何がエラーの要因か?』『危ないところ』を分析できます。その情報を集め分析し、各部署に返していくことが医療安全管理室の役割の一つです。

業務内容

接遇に関する事

医療事故・インシデント調査・分析

訴訟に関する事

その他には?!

- 病院内巡視
- 各部署に設置してある“ご意見箱”の管理
- 安全対策委員会の開催
- 安全対策研修の実施、看護部安全対策委員会参加
- 医療機器安全管理委員会開催などを行っています。